



千葉労働動員

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 千葉 (22) 7207 番

91.11.15 No.3494

会社の言いなりでは命は守れない

1222の闘争体制の確立へ!

東鉄労の裏切り許さず 動乗勤改悪阻止へ

効率のためには動力車乗務員は死ぬというのか
乗務員は死ぬというのか

動乗勤攻撃は、動力車乗務員に「死」を強制することに等しい極限的合理化であることを再度、告発、弾劾する。

動力車乗務員は、たび重なる合理化強行の中で現行ですら緊張の連続と事故の不安に脅かされながらも一生懸命ハンドルを握っているのだ。それこそ心身をすり減らしながら旅客を安全に輸送するために全力を尽くしているのである。

JR当局は、この現場実態

を無視し国鉄時代にも例を見ないような勤務制度の改悪をJR東鉄労革マルと一緒にやって押し付けてきているのである。

効率化の為に動力車乗務員の健康や生命など構ってられないというのだ。このまま会社の言いなりになっていたら本当に殺されてしまう! 怒りも新たに、闘いなくして安全なしの原点に立ちきり動乗勤改悪阻止に立ちあがろう。



労働条件の改善を
求める第一弾!
なぜか労組が
なげなげと
なげなげと

なぜ、今この時期にストライキを構え挑むのか!

第一の理由は、JR総連革マルが、自らの組織的基盤ですらある「運転」の大合理化攻撃に対し、わずかばかりの手当の引き上げと動乗勤改悪

をバーターするという裏切り妥結に乗り出したことにある。

周知の通り、動乗勤改悪には、現場のJR東鉄労組の組合員からも猛烈な反発と不満が吹き出している。要するに動乗勤改悪反対は、全乗務員の

声なのである。

しかし、革マル松崎にとっては、現在進行しているJR総連の瓦解、革マル排除の、深刻な事態の中で、JR東鉄労組を守るためには当局との結託体制を何としても維持しなければならぬ。そのためには動乗勤に率先協力する、という板ばさみのなかで汲汲としているのである。彼らのだん涯絶壁の危機こそ妥結策の本質である。

まさに、「こころ一番!」機を逃さず決起することの意義

は絶大である。

第二は、当局の一方的実施を断じて許さず「動乗勤」案を撤回させ、労働条件の改善をたたかいたるためには、十一月がタイムリミットであるという理由からである。

今次闘争は、労働条件をめぐるたたかいである。当局は今までのように、まともな団交も行わず一方実施するなどということは許されない。九二・三ダイ改から逆算するなら現段階からの闘いが決定的に求められているのである。

全組合員の後決起を!

JR東日本当局は、動乗勤攻撃を突破口に一気に全系統・職種にわたる大合理化「五万人体制」攻撃にうって出ようとしている。

まさに、十一月「攻防」い

かんに今後の「方向性」が決められる。

全組合員は、一丸となって十一・一八総決起集会を圧倒的にかちとり、ただちに万全のスト体制を築きあげよう。

動労総連合 第6回定期大会で 闘う方針を決定!

・1991年11月10、11日
・千葉市内にて

